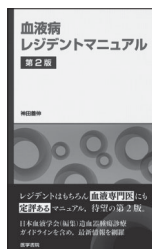


書評

〔評者〕

大山 優

亀田総合病院・腫瘍内科部長



血液病レジデントマニュアル

第2版

神田善伸 著

●B6変型 頁456 2014年

定価：本体4,200円＋税

〔ISBN978-4-260-01903-3〕医学書院刊

評者がこの書籍を手にするのは初版以来2回目である。固形腫瘍診療をしている評者は、以前造血幹細胞移植と血液悪性腫瘍の診療に携わっていた。血液悪性腫瘍の知識をキープアップしたいと思い、読みやすい内容の書籍を探していたところ見つけたのが本書の初版であった。同時に米国と日本の診療の相違を手早く効率的に学び、忘れかけていた血液腫瘍疾患の知識をブラッシュアップしようと思った。読み進んでいくと米国のオンライン教科書である UpToDate® を日本向けに凝縮し、さらに診療上大事なポイントが丁寧にまとめられていることがわかり、著者の神田善伸先生の優秀さに感銘した。著者と評者は、大学こそ異なるが卒業年次が一緒で、専門領域も一時期同じであったため何となく親近感がある。ときどき研究会などで神田先生の講演を拝聴することがあるが、常に頭脳明晰で、かつ実際の臨床経験が豊富でないとできない話の内容にいつも感心している。

今回第2版を手にして感じたことは次のとおりである。初版と同様に血液専門家として知っていなければならない知識がほとんど網羅されている。特に、ここ数年進歩の早い領域では、専門を離れてしまった評者にはフォローしにくい新しい疾患分類とその根拠と流れ、遭遇する機会の多い代表的疾患の病態と必須のポイントが非常にわかりやすくコンパクトにまとめられている。そのため医学生などの初学者をはじめ、専門分野に入りすぎて広い分野の知識が薄れてしまった血液科専門医、また今まさに血液患者診療を研修中の血液科後期研修医(専攻医)と初期研修医までの幅広い読

者に役立つ。評者自身もとても勉強になっており、第2版を自ら購入しようと思っていたところだ。

内容に関して詳しく述べると、好酸球増多症など一般内科でときどき遭遇し、コンサルトされた血液科医にとっても病態解明が困難である疾患が、本書では理解しやすくまとめられている。悪性リンパ腫も一般内科医が初診でみる機会が多く、血液科医が不足している地域では専門医のアドバイスのもと、治療も含めて一般内科医が診療しなくてはならないかもしれない。そのような場合にも役立つように非専門家にもわかりやすく、かつ、実践的な情報が満載されている。また、骨髄腫はここ数年治療の進歩が甚だしく、専門領域から一步離れるとついていくことが難しい。なぜなら新規薬剤を用いた臨床試験データが数多く発表され、特に積極的な治療が適応の患者群では、これまでと異なる治療が主体になってきているからである。ここでも最新のエビデンスが簡潔に網羅され理解が容易である。その他白血病も然りである。また貧血など良性血液疾患も簡潔にまとめられており、通読すると現在の血液科診療の基本と流れが忙しい医師にも短期間で学習できると思う。

つまり血液腫瘍診療から少し離れた評者のような腫瘍内科医の知識のブラッシュアップにとっても役立つ。そしておそらくすべての血液科を学習中の医師にとっても実践的に役立ち、これ以上内容が濃く、かつコンパクトにまとめられた書籍はないと思う。「マニュアル」という題名であるが、それ以上の価値があることは明白で、お薦めの一冊である。